

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	826 国史跡旧崇徳堂保存整備事業	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本 施策	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	02	文化財保護費
		細目	437	文化財保存整備事業
行革大綱の重点事項番号		細目	52	国史跡旧崇徳堂保存整備事業
担当部課	コード	450400	担当者 氏名	福島伸孝
	名称	生涯学習課	連絡先 (内線)	22 - 9681 3842

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	旧崇徳堂	※対象件数
成果(どうする)	保存修理を行なう。そのことによって、今後も長い期間にわたって、旧崇徳堂において、市民は憩いの場や生涯学習の場として利用することができる。	
根拠法令・要綱等	文化財保護法	
開始年度	平成 18 年度	関連事業
終了年度	平成 26 年度	
H22 事業 内容	保存修理として土塀損傷の主たる原因である雨水の跳ね返りを防ぐ為、排水溝の改修を行った。	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	上野丸之内
2 建設面積 (延床面積)	39.6㎡(土塀修復)・15.9㎡(排水溝工事)
3 規模・構造	瓦葺・日干しれんが・漆喰壁
4 総事業費	3,280 千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
			目標	実績		
			実績	目標		
			目標	実績		
			実績	目標		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
	修理工事進捗率	当初計画どおりに修理できたかどうか。	%	目標 65 実績 65	目標 70 実績 70	75	85

投入コスト	H21 決算		H22 決算		H23 当初予算		H24 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計(A)	2,700	5,800	2,000	2,500				
Aの財源内訳								
国庫支出金	1,450	2,800	1,000	1,250				
県支出金	203	392	140	175				
地方債								
その他								
一般財源	1,047	2,408	860	1,075				
事業投入人件費(B)	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440	0.2人	1,440
フルコスト(A)+(B)	4,140	7,040	3,440	3,940				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
有効性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	国史跡旧崇徳堂を江戸期の風情を残す市民の憩いの場、生涯学習の場として残していくため、伝統的な工法による保存修理を行っていない必要がある。
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
達成度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
効率性	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
効果性	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成22年度から25年度にかけて、計画的に土塀の修理と排水溝の改修を行う。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 東土塀・南土塀・西土塀の排水溝の工事を実施した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	児玉 泰清
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	東・南・西土塀排水溝の改修が完了したので、平成23年度より東・南・西土塀本体の保存修理に取りかかる。
現時点における課題、その他	東・南・西土塀修理については、修理方法や修理箇所について専門委員による指導を必要とする。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成25年度にかけて、計画的に土塀の修理と排水溝の改修を行う。